

### 28年つづく

### 道谷小の山村留学

道谷小学校区では、地域の皆さんの協力を得て、地域を活性化させるために里親制度の山村留学を続けています。

これまでに京阪神、四国等から191名の留学生を受け入れてきました。地域の家庭にお世話になる方法での山村留学では日本で一番長く続いているそうです。四季を通じて都会では経験できない自然と親しみ、春の茶つみや田植え、秋の稲刈り、餅つき等、地域の人たちが一緒に子どもたちを見守り育んでいます。また、地域の人たちも子どもたちの姿を見て関わることで元気をもらっています。

今年のもち米づくりは、もみ時きをして苗作りに挑戦しています。育苗箱に土を入れ、ひとりずつ種もみをもらい、ていねいに



時きました。近年では自宅で苗を作るところは少なく、子どもたちも「はじめて時いた。」「すみつこが、時けてへんわ。」等、挑戦のもみ時きに話がはずみ

ます。6人の留学生と8人の子どもたちが蒔いたもみが、今年の秋には黄金の稲穂となることでしょう。

(波賀支部 上田めぐみ)



もみ時きに挑戦しています

### お大師さんの「お接待」 今も続く千種の文化

十番礼所「里堂」、宗栗市指定文化財になっ  
ています(下河野地区)



4月21日は「お接待」の日。「お接待」は四国八十八ヶ所を修行して歩く僧を接待することからきたものです。昭和7年頃より穴栗郡千種村・三河村・土萬村に新四国八十八ヶ所の霊場を決めたのが始まりらしく、千種にはお大師さん(弘法大師)を祀るお堂が70余りあります。

「お接待」は地元の人が交代で当番にあたり、おはぎや柏餅、お菓子などでお参りの人を接待します。

近所の人と誘い合い、仲良くお参りをする地元の方々は、「ええ天気になってよかったのう」「ここまで来るん

も、休み休みじゃで」とゆっくりとお大師さんにお参りです。

この日は学校の授業も早目に終わるため、子どもたちはお菓子をいっぱいもらうことを楽しみに、次々とお参りしていきます。

80年近くたった今も、お大師さんの「お接待」は、千種の文化として根付いています。

(千種支部 小原志のぶ)



お大師さんを祀る個人のお宅もあります(室地区)

はが

ちくわ